

IFRS(国際財務報告基準)についてのアンケート結果

2009年12月25日(金)に、当協会員の中でも財務諸表の利用頻度が高いと考えられる企業会計研究会の実務家委員10名、ディスクロージャー研究会の委員7名、ディスクロージャー研究会業種別専門部会の委員115名の計132名(重複者を除く)に対し、アンケートの実施を電子メールで案内した。2010年1月8日(金)の締切りまでに71名から回答があり、回収率は53.8%であった。

なお、アンケートの回答者は、企業会計研究会が会計に詳しい制度アナリスト、ファンドマネジャーなど、ディスクロージャー研究会がディスクロージャーに詳しいセルサイド・バイサイドのアナリストなど、業種別専門部会がセルサイド・バイサイドの業種・企業担当アナリストで構成されている。

業種別専門部会の委員が担当する具体的な業種は、住宅・建設・不動産、食品、化学・繊維、医薬品、石油・鉱業、鉄鋼・非鉄金属、機械、電気・精密機器、自動車・同部品・タイヤ、電力・ガス、運輸、通信、商社、小売業、銀行、コンピューターソフト、新興市場銘柄の17業種である。

アンケート本編

※ご回答に先立ち以下の情報をご提供ください。なお、頂いた情報は本アンケートの分析にのみ利用させていただきます。

QA : 年齢

AA :

1. 20歳未満	2. 20歳代	3. 30歳代	4. 40歳代	5. 50歳代	6. 60歳以上
0人	1人	13人	47人	10人	0人
0.0%	1.4%	18.3%	66.2%	14.1%	0.0%

QB : 投資実務経験

AB :

1. 20年以上	2. 15~20年	3. 10~15年	4. 5~10年	5. 5年未満
26人	25人	8人	9人	3人
36.6%	35.2%	11.3%	12.7%	4.2%

※以下のアンケートは、IFRS情報の広報を充実させることを目的に実施しています。よって、ご回答は、個人の立場でお願いします。

以下、Q1~Q8については一つ選択してください。

Q1 : IFRS を知っていますか

A1 :

① 全く知らない	2人	2.8%
② 名前くらいは聞いたことがある	1人	1.4%
③ 会計基準の一つであることは知っている	6人	8.5%
④ 凡そどのようなものかは知っている	25人	35.2%
⑤ 個別の基準を含め、ある程度理解している	35人	49.3%
⑥ 個別の基準を含め、詳細を理解している	2人	2.8%
⑦ その他	0人	0.0%

Q2 : IFRS 自体についてどのような点を知りたいですか

A2 : ① IFRS の概念

是非	できれば	どちらでも	不要
29人	19人	11人	12人
40.8%	26.8%	15.5%	16.9%

A2 : ② IFRS の歴史（生い立ち）、IFRS が国際会計基準となる経緯

是非	できれば	どちらでも	不要
14人	26人	23人	8人
19.7%	36.6%	32.4%	11.3%

A2 : ③ IASB（国際会計基準審議会）／IASCF（国際会計基準委員会財団）の組織構造

是非	できれば	どちらでも	不要
8人	22人	29人	12人
11.3%	31.0%	40.8%	16.9%

A2 : ④ IFRS と J-GAAP（日本基準）との主な差異

是非	できれば	どちらでも	不要
59人	6人	3人	3人
83.1%	8.5%	4.2%	4.2%

A2 : ⑤ IFRS を適用した場合の日本企業の業績への影響

是非	できれば	どちらでも	不要
62人	5人	2人	2人
87.3%	7.0%	2.8%	2.8%

A2 : ⑥ IFRS 開発についての最新情報

是非	できれば	どちらでも	不要
41人	21人	7人	2人
57.7%	29.6%	9.9%	2.8%

A2 : ⑦ IFRS を適用した際のメリット、IFRS の優れた点

是非	できれば	どちらでも	不要
41人	20人	6人	4人
57.7%	28.2%	8.5%	5.6%

A2 : ⑧ なぜ日本も IFRS 導入に向かうのか (J-GAAP では何が不都合なのか)

是非	できれば	どちらでも	不要
33人	21人	11人	6人
46.5%	29.6%	15.5%	8.5%

A2 : ⑨ 諸外国での IFRS 導入状況

是非	できれば	どちらでも	不要
25人	28人	14人	4人
35.2%	39.4%	19.7%	5.6%

A2 : ⑩ 諸外国での IFRS 導入時の学び

是非	できれば	どちらでも	不要
28人	22人	19人	2人
39.4%	31.0%	26.8%	2.8%

A2 : 「⑩ その他」と回答した人のコメント

導入に際してのコスト

Q3 : IFRS 導入に向けて気になることは何ですか

A3 : ① IFRS と J-GAAP の差異

とても気になる	少し気になる	余り気にならない	全く気にならない
59人	8人	2人	2人
83.1%	11.3%	2.8%	2.8%

A3 : ② IFRS 導入のメリット

とても気になる	少し気になる	余り気にならない	全く気にならない
35人	28人	6人	2人
49.3%	39.4%	8.5%	2.8%

A3 : ③ 企業経営や企業業績への影響

とても気になる	少し気になる	余り気にならない	全く気にならない
59人	10人	0人	2人
83.1%	14.1%	0.0%	2.8%

A3 : ④ IFRS を用いた財務諸表の見方あるいはその勉強方法

とても気になる	少し気になる	余り気にならない	全く気にならない
51人	15人	3人	2人
71.8%	21.1%	4.2%	2.8%

A3 : ⑤ 開示制度との関係

とても気になる	少し気になる	余り気にならない	全く気にならない
54人	13人	2人	2人
76.1%	18.3%	2.8%	2.8%

A3 : 「⑥ その他」と回答した人のコメント

従来の会計基準との継続性、整合性

Q4 : IFRS 関連の情報を得るツールはどのようなものが良いですか

A4 : ① Web サイト

必須	あると良い	どちらでも良い	不要
49人	20人	0人	2人
69.0%	28.2%	0.0%	2.8%

A4 : ② パンフレット

必須	あると良い	どちらでも良い	不要
6人	44人	12人	9人
8.5%	62.0%	16.9%	12.7%

A4 : ③ 書籍

必須	あると良い	どちらでも良い	不要
21人	39人	8人	3人
29.6%	54.9%	11.3%	4.2%

A4 : ④ セミナー

必須	あると良い	どちらでも良い	不要
20人	38人	10人	3人
28.2%	53.5%	14.1%	4.2%

Q5: 情報提供の頻度はどのくらいが望ましいですか

A5:

① 随時	56人	78.9%
② 月次等の定時	15人	21.1%
③ その他	0人	0.0%

Q6: 提供される情報の量は1テーマあたりどのくらいが望ましいですか

A6:

① 1,000字程度	47人	66.2%
② 3,000字程度	19人	26.8%
③ その他	5人	7.0%

「③ その他」と回答した人のコメント

文字数は関係ない。きちんと詳細まで説明する方が重要。
情報の内容に応じて臨機応変に提供して欲しい。
内容次第。
内容次第なので、文字数では返答できない。
字数に拘らない。必要なら字数が多くても読みます。

Q7: 提供される情報のレベル感はどのくらいが望ましいですか

A7:

① ごくごく簡単な入門レベル	3人	4.2%
② 実務面の基本要素に絞った初級レベル	22人	31.0%
③ ある程度の背景説明や技術的説明を含む中級レベル	43人	60.6%
④ その他	3人	4.2%

「④ その他」と回答した人のコメント

レベル分けは必要ないと思います。実務面の変化を全て網羅していることを重視します。
様々なレベルの情報利用者が想定される中、利用者のレベル毎に情報が提供されるべき。
財務諸表への影響・仕訳まで知りたい。

Q8: IFRSの関係者のうち特にどの者の活動について重点的に情報提供して欲しいですか

A8: ① IASB(国際会計基準審議会)

必須	あると良い	どちらでも良い	不要
32人	26人	11人	2人
45.1%	36.6%	15.5%	2.8%

A8 : ② IASCF(国際会計基準委員会財団)

必須	あると良い	どちらでも良い	不要
15人	33人	21人	2人
21.1%	46.5%	29.6%	2.8%

A8 : ③ FASB(米国財務会計基準審議会)

必須	あると良い	どちらでも良い	不要
17人	34人	19人	1人
23.9%	47.9%	26.8%	1.4%

A8 : ④ 金融庁

必須	あると良い	どちらでも良い	不要
28人	28人	11人	4人
39.4%	39.4%	15.5%	5.6%

A8 : ⑤ 企業会計基準委員会／財務会計基準機構 (ASBJ／FASF)

必須	あると良い	どちらでも良い	不要
37人	27人	6人	1人
52.1%	38.0%	8.5%	1.4%

A8 : ⑥ 日本経済団体連合会

必須	あると良い	どちらでも良い	不要
6人	29人	30人	6人
8.5%	40.8%	42.3%	8.5%

A8 : ⑦ 証券取引所

必須	あると良い	どちらでも良い	不要
14人	34人	19人	4人
19.7%	47.9%	26.8%	5.6%

A8 : ⑧ 日本公認会計士協会 (JICPA)

必須	あると良い	どちらでも良い	不要
21人	37人	10人	3人
29.6%	52.1%	14.1%	4.2%

A8 : ⑨ その他

単に同様のものがばらばらに提供されるよりも、それぞれの主体ならではの立場からの纏め方が有用。

Q9 : IFRS についての情報を集めるためにこれまで主にされたことは何ですか

A9 : (複数選択可)

① IFRS 関連の書籍の購入	31 人	43.7%
② IFRS 関連セミナーへの参加	36 人	50.7%
③ インターネット上の関連サイトの閲覧	37 人	52.1%
④ 特に何もしていない	10 人	14.1%
⑤ その他	2 人	2.8%

「⑤ その他」と回答した人のコメント

関係者への取材
社内情報

Q10 : その他に何かお気付きの点がございましたらご自由に記載してください

<p>日本基準と国際会計基準の差異の上にそれぞれの見直しが同時進行しているという複雑な状況で、常に全体を最新の状況でアップデートすることが、会計へ専門的に資源を投入できる者以外にとっては(自助努力は前提としても)負担が大きい。中途半端なフォローアップは却って問題。関係諸主体共有のインフラがあれば、効率的に一般利用者の理解を助けられると考えます。</p>
<p>すでに導入している欧州市場などのバリュエーション評価について知りたい。また、おそらく対応が進んでいるであろう米国の運用機関などが、IFRS 導入によって企業評価基準をどのように変えたかなど、CFA の議論に興味がある。</p>
<p>会計基準の変更によりデータの連続性がなくなることが最も懸念する点です。その点について、配慮が必要ではないかと思われまます。</p>
<p>アナリストとして担当する商社業界の場合、米国会計基準を採用する企業が多く、米国会計基準との違いについてポイントがまとまっているものがあれば有益です。</p>
<p>休日に気軽に参加できるセミナーや勉強会を企画していただければ幸いです。</p>